

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名：一般国道49号 <small>すいばら</small> 水原バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：新潟県阿賀野市寺社 至：新潟県阿賀野市下黒瀬	延長：8.1km	
事業概要：国道49号水原バイパスは、交通渋滞の緩和、交通事故の低減、広域ネットワークの機能強化などを目的とした、延長8.1kmの4車線のバイパス事業である。		
H12年度事業化	H10年度都市計画決定	H15年度用地着手
H17年度工事着手		
全体事業費：約410億円	事業進捗率：72% (令和3年3月末時点)	供用済延長：— km
計画交通量：19,000～22,300台/日		
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.1 (残事業) 3.2	総費用：(残事業)/(事業全体) 190/546億円 (事業費：104/460億円 維持管理費：86/86億円)
		総便益：(残事業)/(事業全体) 604/604億円 (走行時間短縮便益：527/527億円 走行経費減少便益：63/63億円 交通事故減少便益：14/14億円)
基準年：令和3年		
感度分析の結果：(事業全体) 交通量：B/C=1.003～1.2(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.9～3.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.1～1.1(事業費 ±10%) 事業費：B/C=3.0～3.4(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.1～1.1(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.2～3.2(事業期間±20%)		
事業の効果等		
①防災機能の強化 ・高盛土構造で計画される水原バイパスの整備により、阿賀野川氾濫時の緊急輸送道路としての機能向上や、防災拠点へのアクセス向上も期待される。 ②救急救命活動の支援 ・水原バイパスの整備により、第三次救急医療施設である新潟市民病院への救急搬送時間が短縮し、救命救急活動への支援が期待される。 ③阿賀野市の観光・産業支援 ・事業区間周辺に点在する産業観光拠点及び産業団地へのアクセス性が向上し、阿賀野市の観光・産業の発展が期待される。 ④日常生活圏へのアクセス向上 ・水原バイパスの整備により、阿賀野市に隣接する新潟市との通勤・通学・買い物圏域が拡大するとともに、利便性向上が期待される。 ⑤生活環境の改善 ・水原バイパス整備に伴う通過交通の転換により、現道区間の生活道路や歩行者・自転車空間の安全性改善、沿道地域の騒音低下が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見		
地域から頂いた主な意見：阿賀野市や新潟県国道49号整備促進期成同盟会等より、広域的物流の円滑化や、新潟県東部産業団地への企業進出促進、救急搬送圏域の拡大等に寄与する水原バイパス事業の早期開通に向けた要望をいただいている。		
知事の意見：県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業は、交通渋滞の緩和や交通事故の低減につながるとともに、広域道路ネットワークの機能が強化され、当県にとって重要な事業と認識しております。今後も早期完成に向けて、コスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見		
審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。		

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

事業化以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 事業の進捗状況：用地進捗率100%、事業進捗率72%（令和3年3月末時点）
- ・ 残事業の内容：改良工事、橋梁工事等

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 令和4年中の暫定2車線部分開通に向けて、整備を進める。
- ・ 4車線整備については、交通状況を勘案しつつ、整備時期などを検討する。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考える。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。